



患者さんの気持ちも歯のマニキュアで明るく

昭和大学歯学部歯科保存学講座 兼任講師
古川歯科医院副院長

古川 匡恵

歯のホワイトニングが社会に広く普及したことで、審美歯科への入口は変わってきました。かつては処置期間が長く専門性の高い歯列矯正や、高額な処置となる審美補綴が審美歯科とされ、保険による診療が普通だと考える人には審美歯科治療は高額で特殊なものとして敷居が高いと考えられていました。しかし、リーズナブルで身近で歯質保存性の高い審美性の回復法であるホワイトニングは、この敷居を低くしていません。従来からの審美補綴の患者さんに加え、MI(最小限の侵襲)概念そのものと言える歯のホワイトニングは、多くの新たな患者さんを取りこむことに成功しています。街の歯科医院の看板や歯科医院のホームページには、ほとんどと言ってよいほどホワイトニングが記載されています。

ホワイトニングの普及にともない、患者さんは「簡単にすぐに白く輝く歯にして欲しい」「銀色の被せものを安価に白くしたい」「なるべく短期間で白くしたい」などと要求するようになりました。歯のマニキュア(歯面コート材)による審美処置は、その回答のひとつかもしれません。歯面コート材は、決して究極の方法ではありません。暫間的で気軽なもの、さらに高度な審美処置への入り口となるものと位置づけられます。すなわち、筆者が提唱するビューティドミノ効果により、歯面コート材がきっかけとなり本格的な審美治療に移行することもあります。まさに美容感覚といえる歯のマニキュアは、結婚式や写真撮影などのイベントの直前に応用でき、またホワイトニングや審美治療に踏み込めない患者さんの動機付けにもなります。

この講演では明日の臨床からすぐに役立つように、1. 歯のマニキュアとは、2. 処置法、3. 処置のポイント、4. 症例の提示、5. 応用について解説します。

歯面コート材の特徴、効果の限界と手技を知ることにより、患者さんに適切な情報を伝え、審美歯科への不安を取り除き、白

い歯による生活の質の向上や心理に対するプラス効果も享受して頂けるようにと考えています。女性歯科医師の視点から、歯面コート材をきっかけとして、患者さんの心もつかめるとい話をします。歯の色の明るさは、患者さんの気持ちまでも明るくし夢と希望を与えるでしょう。

【略歴】

- 1995年 東京歯科大学 入学
- 2001年 東京歯科大学 卒業
- 同年 広島大学大学院医歯薬学総合研究科(歯科補綴学)博士課程 入学
- 2005年 広島大学大学院医歯薬学総合研究科(歯科補綴学)博士課程 修了
- 同年 インドネシア テンパサル マハラスティ大学歯学部 歯学部に勤務(Visiting Assistant Professor)
- 2006年 帰国後、昭和大学歯科病院美容歯科に勤務
- 2007年 ドイツ ケルン大学(歯科材料学)へ留学
- 2008年 帰国後、昭和大学歯科病院美容歯科に復職
- 2011年 昭和大学歯学部 歯科保存学講座 美容歯科 退職
- 同年 同講座 兼任講師として在籍 現在に至る

【著書】

「ホワイトニングに強くなる本」クインテッセンス社
東光照夫／古川匡恵 著 久光久 監修
平成23年 8月10日発売

【海外公演】

①第11回アジア歯科審美学会(AAAD)マレーシア クアラルンプール

Poster presentation “Patients’ thoughts about esthetic dentistry”

Masae Furukawa, et al.

Winner of the poster presentation(Poster competition)

②バンガラティッシュ 南アジア歯科審美学会 タムパ

「Immediate Change of Smile by Tooth Manicure in Japan」

Special award as speaker 受賞